

執筆ガイドライン

【「論文」執筆ガイドライン】

【基本方針】

・研究は、先行研究や事例(before)を踏まえて行われることで、新しい「知」が生まれる(after)ことを目指すものです。

・「論文」は、アートとケアの実践や理論に関して学術性をもつ形で論述したものです。

ここでの学術性とは、

- (1) 先行研究に照らし合わせたときの新規性
- (2) 十分な論述・考察・批判的検討による信頼性
- (3) 社会への貢献・分野の開拓という観点での有用性 を指します。

【チェックリスト】

[論理性]

□内容が人々に理解され、納得されるように、論理的で筋道を明確にした議論が行われていること。

□設定した課題に対して、論稿自体が説得的に答えていること。研究方法に妥当性があること。論旨の展開に矛盾や混乱がなく、首尾一貫していること。

[文章の完成度]

□何を明らかにするのが明記されていること。

□得られる知見が整理され、洞察的な視点から記述されていること。

□得られた知見が、どのような経験や手続きで得られたことなのかが明確にわかるように記述されていること。

□誤字・脱字や、基礎的な文法上の誤りがないかのチェックも含め、丁寧な校正をおこなうこと。

[研究倫理]

□インタビューやその他フィールド調査から得た記述を行う場合、本文中で言及するか当該箇所に注を付してその旨(インタビューの実施年月日や場所、情報提供者の名前等)を表記すること。

□発表に先立ち調査協力者・情報提供者にはかならず了解を得るものとし、プライバシーの保護についてもあらかじめ相談・協議のうえで氏名・機関名の匿名化を行うなど配慮すること。

【「報告 -アートミーツケアを実践する-」執筆ガイドライン】

【基本方針】

・研究は、先行研究や事例(before)を踏まえて行われることで、新しい「知」が生まれる(after)ことを目指すものです。

・「報告 -アートミーツケアを実践する-」は、将来のアートミーツケアに関する研究に資する文章を期待しており、必ずしも研究として完成されている必要はありませんが、事例の状況を単純に列挙したり、物語的に記述するだけでは十分でない場合があります。

・「報告 -アートミーツケアを実践する-」では、筆者自身が実際にかかわった実践について丁寧に記述がなされることが期待されます。また、筆者自身が問題に感じた「解決すべき課題」が設定され、それに対して誠実な応答がされていることが望ましいでしょう。

【チェックリスト】

[論理性]

- 内容が人々に理解され、納得されるように、論理的で筋道を明確にした議論が行われていること。
- 実践からわかる新しい「知」には基づいていない、個人的・主観的な意見が記述されていないこと。

[文章の完成度]

- 報告の目的として、何を明らかにするのが明記されていること。
- 実践から得られる知見が整理され、洞察的な視点から記述されていること。
- 得られた知見が、どのような経験や手続きで得られたことなのかが明確にわかるように記述されていること。
- 誤字・脱字や、基礎的な文法上の誤りがないかのチェックも含め、丁寧な校正をおこなうこと。

[研究倫理]

- インタビューやその他フィールド調査から得た記述を行う場合、本文中で言及するか当該箇所に注を付してその旨(インタビューの実施年月日や場所、情報提供者の名前等)を表記すること。
- 発表に先立ち調査協力者・情報提供者にはかならず了解を得るものとし、プライバシーの保護についてもあらかじめ相談・協議のうえで氏名・機関名の匿名化を行うなど配慮すること。

附則

1. このガイドラインは、2023年8月31日から施行する。